

# より有効に病院を利用していただくために 広報げろ 2012.05

入院病床をより有効に利用していただくために

地域病院のもっとも重要な役割は急性期、慢性期病の入院治療です。今回は金山病院入院病床の有効な利用法についての話です。

## ◎急性期の入院

入院を必要とする急性期疾患で最も多いのは呼吸器疾患です。肺炎は死亡率は第四位ですが、高齢になるほど死亡率が増加し、積極的な入院治療が必要な病気です。

心臓病や脳卒中は早期に入院し積極的な治療を受けなければ死に至らなくても重大な後遺症を残すことがあります。専門病院との連携を密にして治療に当たっています。

手術を要したり経過観察が必要な外傷などでも入院が必要となります。転倒による太ももの付け根の骨折は手術が必要であり、腰椎の圧迫骨折も痛みが強い場合入院のうえコルセットを作ってリハビリを行い退院というのを標準治療としています。

日本人の半数近くは癌で死亡するといわれている今日、癌も入院治療を必要とすることの多い病気です。手術、化学療法、腸閉そくなどの手術後の後遺症などで積極的な入院治療が必要となります。

## ◎慢性期の入院

急性期を脱した患者の社会復帰や在宅療養に向けての入院療養も病院の役割です。整形外科的治療後のリハビリ、癌治療後の体力回復、嚥下機能、呼吸機能回復など退院に向けて積極的なリハビリを行います。他病院で手術を受けた患者の退院に向けての入院リハビリも受け入れています。

慢性期入院は癌の終末期、緩和医療も対象としています。本来終末期は在宅で看取ることが理想ですが、痛みや苦しみなど在宅では対処できない場合、入院の上可能な限り痛みや苦痛を和らげる処置を行い終末を迎えていただくことも病院の役目と考えます。

## ◎在宅療養支援入院

在宅療養中に発生した肺炎や治療困難な褥創は命にかかわることもあり積極的な入院治療が必要です。また、介護者が急に介護不能となった場合緊急の支援として短期入院も受け入れています。慢性疾患を抱えた在宅療養者の病状チェックのための短期入院などと組み合わせてご利用いただけます。

## ◎退院後は

病院は終の棲家ではありません。病状が回復、安定し、医療処置が必要でなくなったら退院となりますが長期入院などで家庭に居場所がなくなり在宅復帰が困難となってしまうこともあります。病院では社会福祉士が中心となり、ご家族と相談の上、近くの診療所、訪問看護ステーション、行政（地域包括支援センター、社会福祉協議会）と連携し在宅療養支援体制を整えたり、老健施設やグループホーム、特養への入所などの御相談に応じています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦